

丹波縄文の森塾 第10日目活動報告 (令和5年1月14日)



2023年1月14日(土) 曇り時々小雨
新しい年を迎えてのはじめての丹波縄文の森塾。

まず、杉本サポーターの指導でフラワーボックスづくりにチャレンジしました。材料は丹波市の(株)大地農園からいただいたバラやガーベラ、あじさい、かすみ草などのプリザーブドフラワーやドライフラワーを木箱に詰め、どんぐりで作った今年の干支のウサギも入れ、飾り付けました。



次に、12月に伐採をしたクヌギやコナラの原木を約1mの長さに「玉切り」をしました。塾生は、直径15センチを超えるような木も上手にノコギリを使って切っていました。2月の縄文の森塾で、シイタケの駒打ちを行います。



昼食は、ちょうど「春の七草」の頃で、「七草風のおかゆうどん」。おかゆには、すすろ(大根)やにんじん、白菜などが入り、お正月料理でちょっと疲れた胃腸にやさしかったです。

午後からは、山崎さんの指導で「ぐにゃぐにゃ凧」を作りました。

ポリ袋を六角形に切って、竹ひごで骨を作り、タコ糸を結びました。凧の本体の部分には、みんなそれぞれ好きな絵や文字を描きました。今年の干支のうさぎや漢字で大好きな「寿司」と書く塾生もあり、世界で一つしかない凧が出来あがりしました。

森公苑のジャンボ門松の前で凧を手に記念写真を撮った後、凧揚げをしました。



あいにく、風がない時で凧を揚げるためにはひたすら走らないといけなかったのですが、塾生は思いっきり走り回って、空高く、舞い上がる凧に「揚がった、揚がった」と歓声をあげていました。

